

109



大分県立竹田高等学校  
関東同窓会  
会報

第9号

発行者・会長 伊東七五三八  
編集者・足立五郎  
発行所・関東同窓会事務所  
東京都中央区築地2-7-12  
15山京ビル2階205号  
03-3543-8747

印刷(株)イフ・フォーラム  
東京都新宿区早稲田鶴巻町 552  
千田ビル302 ☎03-3207-8064



### 会長就任に当たって

会長 伊東 七五三八  
(昭・20年卒)

浅学非才の身を顧みず、歴史と伝統に輝く竹田高校の関東同窓会の会長を引き受けることといたしました。

竹田高校関東同窓会は、昭和六十二年に設立され、初代高宮会長が骨組みを作られ、方向づけをされて、がっちりとした基礎の上に会の発展が約束されました。

二代目後藤会長は、それに肉付けをされました。後藤会長は若々しく、明朗で積極的、その性格に合わせたように、会の組織作り、運営に積極的に取り組み、会全体の活動が明るく生き生きとして来りました。特に委員会活動とその組織を作ったことにより、若い会員が積極的に会の運営に参加し、会の活動がのびのびと、しかも充実発展して参りました。

もう一つは、年一度の懇親会を当番学年幹事の自由な、そして斬新な着想に基づく企画運営に任せたことであります。これによって、懇親会には年ごと

に変わった楽しいイベントが取入れられ、賑やかな盛り上がりが見られるようになりました。私はこの二人の先輩が敷いて下さった路線を継承していきたいと思っております。

同窓会は、会員の親睦をはかることが第一であります。この親睦の輪を拡げるための組織活動の拡充、そのための努力と工夫を続けたいと思っております。

もう一つは、関東同窓会を母校竹田高校の発展に役立たせたいということであり、そのためには、ぜひとも母校竹田高校、本校同窓会とのコミュニケーションをはかることが必要であります。そのための関東同窓会の組織的な活動として、何をどうしたらよいか、これからの検討課題と考えております。

先日の顧問会議で長吉副会長の意見として、会員が竹田に帰ったとき、なるべく母校に立ち寄って、在校生や先生方と接触する機会を作るようにしたららど

うか、との発言がありました。大賛成であります。私も五十数年前の中学時代に舞中将や土井晩翠先生、金光厚生大臣の講演を聞き大いに感激し、今でもその時の先生方の言葉づかいなど覚えております。私の人格形成に影響を与えたのではないかと思っております。先ず実行したいと思っております。

### 新役員決まる

総会で次の役員が選出されました。

名譽会長	宮崎 貞光(8月17日逝去)
相談役	高宮 昇 後藤 鉄石
顧問	矢嶋 三義 中川 清次
	加藤 郷一 工藤 幸男
	田部 健 里見 彰彦
	里見 菊雄
会長	伊東 七五三八
副会長	渡辺 正治 近藤 秋男
	池内 勇吉 長吉 泉
幹事	吉田 忠 留高 照幸
幹事	佐藤 映之
副幹事	羽田野次彦



総会には雨がつきものとはばかりに、今年も小雨の降る日、恒例の第七回総会・懇親会が開催された。出席者は、会

### 第七回総会 懇親会

- ・時 平成5年6月19日(土)
- ・所 ホテルグランドパレス

### 3F白樺の間

員一六二名、来賓五名、その他二名。総会は、池内幹事長の司会のもと、渡辺副会長の開会の言葉に続き、後藤会長の挨拶・来賓の紹介。幹事長の会務報告、吉田監査より会計監査報告がなされ、それぞれ承認された。続いて副会長の新役員の紹介、会則の改正提案、そして承認。総会は滞りなく終了した。

本年度の懇親会当番学年幹事は、昭和二十七年卒と三十七年卒。感謝と敬意の拍手の中で懇親会。司会の後藤浩一氏の朗々たる「荒城の月」の歌声とともに開幕。得丸正氏の開会の言葉に続き、来賓の後藤竹田市長の挨拶。この日生憎台風が九州に近付いており、災害に対する備えや、映画「わが愛の譜」にエキストラ出演されたことなどが語られた。次に母校の尾西校長より、学校の近況(進学部活の状況)について説明された。

そして、今回の余興のハイライト林屋二楽さんの「紙きり」、次に、会員の柳家さん好(右藤康幸)さんが登場。彼は、かの有名な柳家小三さん師匠のもとで修業を積み、この九月に真打ちになる落語界のホープ。

小さん師匠の園遊会でのエピソードなど、さすがの話芸で会場を笑いの渦に巻き込んだ。彼の今後のご精進を会員一同とともに祈る。

乾杯の後、歓談に入る。そして、和やかな中に閉会。久しぶりに会う友人、懐かしい訛りと方言、みんなの顔が輝いた一日であった。

先輩を訪ねて

お客様 高宮 昇様

○とき 平成五年九月一日  
○ところ 学士会館

○聞き手 足立 五郎

\* 早速でございますが、中学時代の思い出からお願いいたします。

高宮 まず思い出されるのは、多くの立派な先生に恵まれていたということです。校長は富野榮三郎先生でした。朴訥、質実なお人柄でしたが、理想家肌の情熱をもって生徒に接しておられました。私たちは多くの先生から折々に

「お前たちの学校は竹田の最高学府だ。誇りと責任を持って」とか「井戸の中の蛙になるな。大志を抱くのだ」とかよく言われまして。それらの言葉は私たちの心を少なからず刺激して、皆それぞれに青雲の志を抱くようになったのではないかと思います。

\* では、旧制高校時代のお話を伺いたいのですか。

高宮 中学時代はまだ子供でしたから学校には指導育成的な傾向が強かったのですが、高校に入ると一転して、自治と自由の雰囲気がいっぱい溢れていま



高宮 昇氏略歴

田第業、入補の事、常同協審議連盟等  
昭和3年竹田中学卒業。昭和4年竹田高等学校卒業。昭和7年東芝入社。昭和10年東芝芝罘支店長。昭和13年東芝芝罘支店長。昭和14年東芝芝罘支店長。昭和15年東芝芝罘支店長。昭和16年東芝芝罘支店長。昭和17年東芝芝罘支店長。昭和18年東芝芝罘支店長。昭和19年東芝芝罘支店長。昭和20年東芝芝罘支店長。昭和21年東芝芝罘支店長。昭和22年東芝芝罘支店長。昭和23年東芝芝罘支店長。昭和24年東芝芝罘支店長。昭和25年東芝芝罘支店長。昭和26年東芝芝罘支店長。昭和27年東芝芝罘支店長。昭和28年東芝芝罘支店長。昭和29年東芝芝罘支店長。昭和30年東芝芝罘支店長。昭和31年東芝芝罘支店長。昭和32年東芝芝罘支店長。昭和33年東芝芝罘支店長。昭和34年東芝芝罘支店長。昭和35年東芝芝罘支店長。昭和36年東芝芝罘支店長。昭和37年東芝芝罘支店長。昭和38年東芝芝罘支店長。昭和39年東芝芝罘支店長。昭和40年東芝芝罘支店長。昭和41年東芝芝罘支店長。昭和42年東芝芝罘支店長。昭和43年東芝芝罘支店長。昭和44年東芝芝罘支店長。昭和45年東芝芝罘支店長。昭和46年東芝芝罘支店長。昭和47年東芝芝罘支店長。昭和48年東芝芝罘支店長。昭和49年東芝芝罘支店長。昭和50年東芝芝罘支店長。昭和51年東芝芝罘支店長。昭和52年東芝芝罘支店長。昭和53年東芝芝罘支店長。昭和54年東芝芝罘支店長。昭和55年東芝芝罘支店長。昭和56年東芝芝罘支店長。昭和57年東芝芝罘支店長。昭和58年東芝芝罘支店長。昭和59年東芝芝罘支店長。昭和60年東芝芝罘支店長。昭和61年東芝芝罘支店長。昭和62年東芝芝罘支店長。昭和63年東芝芝罘支店長。昭和64年東芝芝罘支店長。昭和65年東芝芝罘支店長。昭和66年東芝芝罘支店長。昭和67年東芝芝罘支店長。昭和68年東芝芝罘支店長。昭和69年東芝芝罘支店長。昭和70年東芝芝罘支店長。昭和71年東芝芝罘支店長。昭和72年東芝芝罘支店長。昭和73年東芝芝罘支店長。昭和74年東芝芝罘支店長。昭和75年東芝芝罘支店長。昭和76年東芝芝罘支店長。昭和77年東芝芝罘支店長。昭和78年東芝芝罘支店長。昭和79年東芝芝罘支店長。昭和80年東芝芝罘支店長。昭和81年東芝芝罘支店長。昭和82年東芝芝罘支店長。昭和83年東芝芝罘支店長。昭和84年東芝芝罘支店長。昭和85年東芝芝罘支店長。昭和86年東芝芝罘支店長。昭和87年東芝芝罘支店長。昭和88年東芝芝罘支店長。昭和89年東芝芝罘支店長。昭和90年東芝芝罘支店長。昭和91年東芝芝罘支店長。昭和92年東芝芝罘支店長。昭和93年東芝芝罘支店長。昭和94年東芝芝罘支店長。昭和95年東芝芝罘支店長。昭和96年東芝芝罘支店長。昭和97年東芝芝罘支店長。昭和98年東芝芝罘支店長。昭和99年東芝芝罘支店長。昭和100年東芝芝罘支店長。

高宮 東芝は、土光社長の時代に本格的にアメリカに進出しようというころになり、それには「幹部が日本にいて、号令をかけているだけでは駄目だ。すべからず現地に行つて率先陣頭に立て」と檄を飛ばしたんです。幸か不幸か私にその矢が当たってしまいました。何と言つても私は

高宮 東芝から東芝EMIに移って慣れない音楽産業にうき身をやつていたときに出くわしたのが、国際的な著作権の問題でした。東芝EMIというのは、アメリカとイギリスの資本が五〇%、東芝が五〇%を出資して作

高宮 とにかくにも私という人間が、長い間に形成されて行つたその源流は正しく竹田時代にあつたと、私は思っています。古い歴史、香わしい文化性、自然は麗しく、人情も濃やか、本当に美しい郷土であることに限りない愛着と感謝の気持ちを抱かずにはいられません。郷土の方々は、過疎や災害など難しい問題を抱えていられることでしようが、先人が宮々と培ってきたこの美しさは、ぜひ誇りと自信を持って守り続け、発展して行つて頂きたいと思

た。入学試験には必死でとり組んでいただけに嬉しかったですね。学友にはいい男が多く、多感な時代だけに随分啓発されました。自我に目覚め、真理を探究するという点ではまことに恵まれた環境だったと思います。

高宮 大学三年のとき、中国との全面戦争が始まりました。太平洋戦争や学徒出陣にはまだすこし間がありましたが、高校時代いらい五・一五事件、二・二六事件など、軍による大規模な暴動が発生し、東京にも戒厳令が布かれるなど、動乱の子兆を身辺にもじわじわと感じながらの学生生活でした。日本はこれからどうなっていくのだろうかと、憂い多き、不安の時代ではありましたが、それだけに学問に寄せる気持ちにはひたむきなものがあつたよう

高宮 ええ。幸いに生き長らえて東芝に復帰しましたが、その東芝は甚大な戦災被害や労働争議の多発で全くの混乱状態でした。そんな中でGHQ(連合軍総司令部)の指令に基づく「企業再建整備計画」作りを担当させられました。昭和二十五年まで掛かりましたが、東芝の生き残りを図りながらGHQをいかに納得、承認させるかに苦心しました。

高宮 最後に、郷里竹田や私たち後輩に一言お願いします。

\* 大学時代は、次第に戦時色が濃くなつて、でも学問と青春とは十分に謳歌できたのでは。

高宮 主計将校に回されたことがとくに安全ということでもありませんでした。直接戦闘に参加しないだけで部隊と一緒に行動しつつ、部隊の全員に三度の食事を必ず食べさせるのが仕事ですから、それなりの苦労がありました。戦況が厳しい時はみんな同じなんです。同期の仲間も随分戦死しました。



高宮 山家育ち、現地の言葉には苦労しました。四六時ちゅう英語に取り巻かれていると、それだけで息が詰まりそうでした。お互いの文化背景が違うのでしよう。コミュニケーション・ギャップには困りました。でもなんとかそれを乗り越えて、今もなお文通を続けているような親しい友人ができました。しているのは、個人的にも得難い収穫でした。それにつけても、私の英語のルーツは竹田中学にあることを、その時しみじみと思いました。

\* 兵役は七年間もあつたのですか。でも主計将校であつたこと、終戦の時、米軍の管理下にあつたことは幸運でした。

高宮 主計将校に回されたことがとくに安全ということでもありませんでした。直接戦闘に参加しないだけで部隊と一緒に行動しつつ、部隊の全員に三度の食事を必ず食べさせるのが仕事ですから、それなりの苦労がありました。戦況が厳しい時はみんな同じなんです。同期の仲間も随分戦死しました。

高宮 た合併のレコード会社なのですが、結局十一年間も相務めることになつてしまいました。その会長の時代に、業界団体である社団法人・日本レコード協会の会長に選任されたのですが、当時著作権に關しては世界規模でレコードの海賊版問題や複写機による無断コピーの問題などが多発しておりました。日本でもこの問題は深刻で放置できない状況になりましたが、音楽著作権保護の国際機関(本部ロンドン)と協力して、条約や国内法の改正など事態の改善に努めました。おかげで日本国民の著作権意識も徐々に深まり、いまでは日本も世界のレコード産業界の重要な地位に立つようになったと思います。

ふるさと便り

### 同窓生の皆様に感謝し さらなる発展の基礎を

竹田高校 校長 尾西 陽一



れた学校づくりに邁進したい。

本校に着任して一学期が経過しました。これまでの状況を紹介します。

朝自習、放課後の七限の補充授業が全学年を通しておこなわれており、学力充実に先生方が真剣にとりくんでおります。放課後の部活動も活発であり、約80%の生徒が部活動に参加しております。全県的に傑出した部はありませんが、山岳、弓道、陸上、剣道、野球

等、今後が期待されます。

生徒会活動も活発化しております。

八月十二日には生徒会役員が街頭で募金運動を自主的におこない、約十七万円を北海道、鹿児島、被災地に竹田市役所を通じて送りました。

昨年度より、文化祭、体育大会を「臥牛祭」と銘うって実施するようになりましたが、生徒が自主的に運営してきております。

四年後には、創立百周年を迎えます。本校における百年にわたる中等教育の蓄積は、卒業生の各位のご活躍の姿に如実に反映されております。私は全校朝礼等、機会あるごとに皆様の御活躍の姿を生徒に話すこととつとめております。

体育後援会に御寄付をいただいております。

りますことに対しても、衷心より厚く御礼を申しあげます。

今、生徒減少期に際し、各学校では特色のある学校づくりに尽力いたしております。「竹田高等学校の顔は何なのか、それをどういう手法でつくりあげるのか」という課題を検討中であり、結論的に申すなら「質の高い実のある学校づくり」ができたかと存じております。「質実剛健」は旧制中学校以来の伝統であり、また「質実学校」を目ざしてさらに努力してまいり所存であります。

関東地区で日々御活躍されている皆様の御発展をお祈り申し上げるとともに、これまでの御支援に対し深謝の念をささげ、今後の一層のご支援を心からお願い申し上げます。

(平成五年九月三日記述)

### 『ふる里便り』

十時 健二(昭・38卒)

私の生れ育った大野町は、阿蘇外輪山の東麓地帯に源を発する大野川、この台地と谷が織りなす地域に展開するのが、大分県大野郡大野町である。町の面積は一〇九㎢、大分県の五十八市町村の中で二十六位、神角寺、鏡ヶ岳、烏帽子岳等を主峰とする素朴な山紫水明の町である。現在、人口は六千五百二十五名で、昭和初期に於いては一万三千人であったとのこと。実に以前に比べて二分の一と言う過疎化の一途を辿っているのが現状である。主たる産物としては、米、麦、タバコ、しいたけ、又



奇産である。特に最近では農道空港が出来、新鮮な野菜農産物を各地に出荷出来る様になっており、便利な時代になったと思う。

又歴史的には豊後国は大野一族からなり、この大神惟基の第四子が大野基平である。よって大野町領主の祖は、この人より始まっている。後に大野一族(大野九郎泰基)は、大友能直の弟に当たる古庄重能により滅ぼされ、その後は兄の大友能直により相伝されたものである。又小生、十時一族に於いては柳川藩、立花領主の家老一族で槍の名手、

十時伝右衛門の末孫で、現在の十時村に定住とのことである。又私の祖父は豊後に、今日の豊後牛を改良導入した西野甚作であることが、姉の小学校の教科書に書かれていたとの事である。

いずれにしても、この様な歴史の流れの中に自分がある事を考えれば、実

に不思議な気がしてならないと同時にふる里と言うものは、やはり忘れる事の出来ないものであると今さらと思う。最近、少し年を取って来たせいか、ふる里に帰りたく思う今日頃である。



トクマル事務所

税理士 得丸大典  
経営士

〒104 東京都中央区新川 2-2-1  
いずみハイツ茅場町1011  
TEL.03 (3551) 1896  
FAX.03 (3551) 1926

トピックス

宮崎貞光さんの死を悼む

前会長 後藤 鉄石

(昭・10年卒)



普段元気な人程、人の死は突然やっ  
て来るものです。百歳までも生きられ  
ると思っていた我等が宮崎貞光さんが、  
平成五年八月、突如、心筋梗塞のため八  
十五歳の生涯を閉じられました。惜し  
みても詮ないことですが惜しまれます。  
竹田高校関東同窓会の創立以来、終  
始温かい御支援を頂戴し、満腔の謝意  
を御霊位にささげる次第であります。

氏は最古参の先輩として同窓会の名  
誉会長の役につき、財政的御援助を賜  
わり、草創期の会の進展を支えて頂い  
た重要な御一人でありました。常に慈  
顔をもって我々に接せられ、若い時代  
の苦労話には大いに啓発されました。  
氏は旧制竹田中学校を大正十四年に  
卒業され、縁故をたよって長駆上京さ  
れ銀座浅沼商会に奉職。当初は丁稚と  
して苦心惨憺、後に大久保兄弟商会を  
へて独立し、旭商店を設立されました。  
帝国ホテル店を母胎とし、都内に五支  
店を開設され、宝石業界に雄飛されま  
した。

まことに立志伝中の人であります

機を見るに敏なること、計算の確かな  
こと余人の及ぶところではありません。

独立された昭和十四年は大戦の前で、  
真珠が国の外交の為に役立ち、敗戦後  
はGHQや進駐軍将校連の日本土産と  
して活用され、帝国ホテル内店の立地  
が大いに役に立ったと話しておられた。  
さもありませんと思わしめる回顧談で、  
その炯眼と強運と人柄は、大変興味深  
い成功物語でありました。

年をとっても少しも背が縮まず、姿  
勢も正しく、一年三六五日地下鉄で大  
塚から日比谷迄出勤され、少しも金持  
ちぶらず、腰も低く豊富な人生経験の  
持主であること感じさせる人でした。  
生前の宮崎貞光さん 92・6・10



国には納税で寄与され、社会には寄  
附で貢献され、竹田市から名誉市民の  
称を早くから受けて居られました。  
関東同窓会としても惜しい大先輩大  
支柱を失った訳であります。幸いに  
して本会も年を追うに従って維持会費  
も増え、財政的基盤も固まって来た状

故郷から

関東同窓会の皆様方には、何かとお  
世話になっていきます。皆様方の故郷、大  
分県そして竹田市は、皆様方の熱い思  
いに支えられて、県勢、市勢の振興、発  
展に懸命に頑張っています。常日頃の  
ご厚情に心から厚くお礼を申し上げま  
す。

この度、「臥牛」に投稿の機会をいただ  
き誠に有難うございます。竹田から情報  
を発信させていただきます。

今年、日本に西洋音楽を積極的に取  
り入れ、世界を目指した情熱の人、滝廉  
太郎先生が二十三歳と十ヶ月という若  
さで世を去って九十年になります。

これを記念して、東映が滝廉太郎先生の  
人物像に迫る映画「わが愛の譜 滝廉太  
郎物語」を製作、今、全国の東映系の映  
画館で上映されていると思います。

この映画の国内ロケは、滝廉太郎先生  
が多感な少年時を過ごした竹田の「岡城  
址」や「殿町・武家屋敷通り」「寺町の滝  
廉太郎旧宅」などで行われました。

これらは、皆様方が「学び」「遊んだ」

況にあり、之から先も次第に発展を続  
けることが期待出来る様になりました。  
永年の氏の御鴻恩に感謝し且つ御安  
堵願ひ度く、とこしえに御冥福を祈り  
上げる次第であります。

竹田市観光課長 大塚 敏雄

昔懐かしい所だろうと思います。是非、  
映画をご鑑賞いただき故郷竹田を思い  
出して下さい。

竹田市はこの映画を契機に、「歴史と  
文化の薫るまち竹田」を全国の人々に  
紹介、竹田市の活性化、観光の振興に繋  
げてまいりたいと考えています。

そういった意味合いから、平松大分  
県知事さんには「菊池大麓文部大臣」の  
役、後藤竹田市長は「文部事務次官」の  
役で、特別出演をいただきました。ご両  
人の演技は予想以上のものと高い評価  
を得たようです。

最後となりましたが、滝廉太郎先生  
の旧宅は、関係者をはじめ、多くの皆様  
方のご協力をいただき、平成四年四月  
一日から、「滝廉太郎記念館」として一  
般公開をしています。大分県そして竹  
田の故郷に帰られましたら一度訪ねて  
下さい。お待ちしております。

発信したき情報はまだまだ多くあり  
ますが、紙面の都合上ここまでにさせ  
ていただきます。

関東同窓会々員の皆様方のますます  
のご活躍とご健勝をお祈りしながら失  
礼をさせていただきます。

奥謝野寛、晶子夫妻

昭和六年十月二日竹田を訪ねて

○岩の山四方をめぐりてなかに置く  
竹田の街と秋の河おと

○出で入れば山の城にもある如し  
竹田の街の四方の洞門

○皆白し竹田の町の洞門の  
晶子

○雲早し洞門を入り洞門を  
やがて出づべき豊後の竹田

ふるさとの香り、おくります  
椎茸、かぼす、山菜佃煮  
(株) 姫野一郎商店

大分県竹田市大字竹田町235  
TEL 0974-63-2853  
FAX 0974.63-0528

クラス会の動き

竹中第二八回在関東同級会

矢嶋 三義

(昭・4年卒)

毎年持廻りで開いているが、本年は五月十六日に、高野君が昭和三十一年以来、

名を大正十三年四月、約一五〇出身地は竹田直入郡・大野郡・阿蘇郡



女学生への思慕の情はいつの時代も

変りなく、山手の女学校の運動会に行

き真面目に見学したのに、翌日に校長室に呼び出されて厳重警告されたよう

現在生存者は十五人となり、一病息災の学友が多い中で小生ら五人は在郷

古河市は渡瀬川河畔の城下町で、往

二八会情報

句坂 謙一郎

(昭・28年卒)

昔、まだ私が二十代の頃、T会に出席したことがある。功なり名を遂げた年配の方が大勢で、若僧の私などの居る

時流れて、竹田高等学校同窓会発足の案内を頂き、第一回総会より出席している。幹事の方の努力があるの

集まりになると、会をまとめるのになり大きなエネルギーが必要だと思

時は東京方面への船便による物流基地として花柳界に芸妓一〇〇人程度を擁していたとのこと。現在は郷土歴史館

(九三・八・一記)



況が大きく扱われているが、その延長線上に同窓会が位置した時、同窓会は

関東二八会第一回の集りは、二十八

尾瀬を旅して

得丸 大典

(昭・20年卒)

稲葉会の紅二点と

の野口(旧姓・田近)、寺田さんの二名が参加して一層活気づいた。夜来の台風は



来年は、故郷久住への思いを秘めて。

還暦を期して、富士への挑戦からスタートして毎年登山をすることとなった。

いつも男性ばかりの登山であったが、今回は稲葉会

た頃の、聚楽だった。その折、二八会にちなんで、二月八日前後の土曜日を開催日に決め、幹事持ち回りで毎年続けて来た。三十代の頃には、十年間ばかりの間、年一回、二月八日と八月二日前後に開催したことがある。

二十回は熱海で、まだ幼い子供を連れて参加したクラスメートも居た。二十五回は、ホテルグランドパレスに恩師(藤原チズ田姓・衛藤、日高伝、後藤孝一)三先生をお迎えし、なつかしき竹田を語る。

三十五回は、「三十五年遅れの修学旅行」と銘打って、当時、関東同窓会長の高宮昇、副会長の後藤鉄石、幹事長の長吉泉、二氏をお招きし、滝廉太郎ゆかりの箱根路を散策。

四十回は、この五月二十二日・二十三日に別府城島高原で、昼間はゴルフ大会、由布院・久住高原遊覧、夜は、岡

城太鼓の剛勇な音を聞き乍ら、百五十名が夜の更けるのも忘れて若き日々を語り、平成七年十月に還暦集会を郷里竹田で開催することを約束し散会。

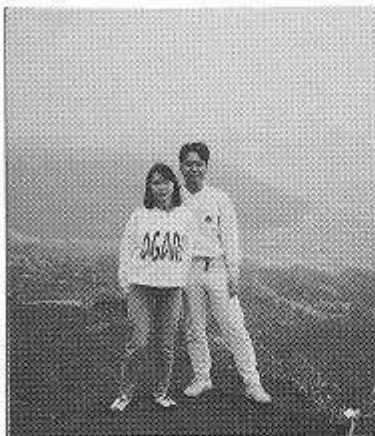
集まるのはいいが、そろそろ老年の域に達しようとしている年代、三十年前肩書きの重たい人の中へ入って行けなかつた頃を思うと、若い人に煙たがられないような存在にならなくてはと

会員の語らい

五右衛門風呂

杉岡 ちずよ

(旧姓大久保昭・58年卒)



久住で生まれ育って、竹田高等学校を卒業し、東京生活を始めてから早や十年になる。

もうすっかり東京の風に馴染んでしまったようだ。第三者は見てくれるが、どっこい、土の香りも、草木の香りもまだしっかりと身についていると自分では思っている。

二年前に結婚した主人は、生まれも育ちも東京だが、どこか土の香りのする人で、私の実家の久住を大変気に入ってくれている。又、阿蘇の大観峰の雄大さをこよなく愛し、讚美する人でもある。

一年に二、三回、そろって里帰りするが、その折りに必ず訪れるのが母方の祖母の家である。祖母の家には今なお薪で沸かす五右衛門風呂がある。

何年か前に風呂場を新しくしたが、薪は裏山に沢山あるし、昔から慣れ親

流れる稲葉川のせせらぎはあくまでも耳に優しく、例え様のない解放感に浸れるのだそうだ。

今の時代に薪で沸かす五右衛門風呂にこだわる祖母のことを、一番理解しているのは、もしかしたら東京人である主人かもしれない。

この夏も久住に里帰りしたが、わざわざ十キロの道を車を走らせて、五右衛門風呂をもらいに行った。

私も、ひぐらしの鳴き声を聴きながら、五右衛門風呂にのんびり浸かって、便利な都会の暮らしのこと、時間に追われる毎日の勤めのこと等に思いを馳せ、ゆったりと時が流れる田舎生活と五右衛門風呂の魅力について、しみじみと考えた郷里での夏でした。

鉄のザラザラした釜の感触、「スイタ」と称する敷板にバランスよく体を乗せて、浴槽に浸るのは技術を要する。お湯ざわりは肌にやわらかく、外を

歌に生き愛に生き

田代 弥生

(旧姓本郷 昭・33年卒)

「驚イテモ、オドロキ限レナイ、歡コンデモ、ヨロコビ限レナイ、哭シンデモ、カナシミ限レナイ。ソレガ板画デス。ソウイフ無限際ノモノニ、亦、遊バレテ貰ツテキル、ワタクシハ、倅セモノデス。」

これは、私の好きな板画家棟方志功の自筆原稿から引用させていただいたものである。

私はかつて熊大の女子寮にいた頃、

ちの中でうたう、それは不思議なへびびんでもある。そして、まこと詩はどこでもころがっている。

・背に地球ねころぶTシャツ少年に

黙約のごと降る流星群

宇宙のロマンに触れたくて、少年も私も二時近くまで星空を眺めていた。

年毎に美しいものにのめり込んでゆく自分をどうする事もできないでいる。

・月下美人間に生まれよ太陽はなれをゆっくり花殻にする

今年のはあの下美人に見える事ができた。「遊バセテ貰ツテキル」神秘なひとときであった。

さて、半生を振り返る時、「哭シンデモ、カナシミ限レナイ」事もあった。この青い地球に戦争や動乱があり、それは今も続いている。

・ここにきて防毒マスクはるかなる進化の末の人類の面  
・蘭展を歩めどわれの背後より砂ふぶく音兵士のさけび  
・動乱の屍こえきし少年のカメラに向くる沈黙の目

私の身辺では平成元年十一月、八十八歳の父が入院した。そして、翌年一月に手術。私は一週間付き添った。枕元には



元祖 三笠野

竹田銘菓

創業文化元年 旧岡藩御用達 御菓子司

但馬屋考舗

竹田市上町 TEL0974(63)1811 茶房 たじま屋 茶房 だんだん

私の送った伊勢神宮のお守りが置いてあった。

幸いにも父は退院し、その年の夏私は帰郷した。父も母も元気で迎えてくれた。そんなある日、父と木槿の花を眺めながら話し、木槿の歌を交換しようと約束を交わした。そして、横浜に帰った私に父の歌が送られて来た。

・人の世ははかなきものよ清楚なる木槿の花のたまゆらの命 本郷 淳 私は花の美しさに負けて作れなかったが、やっと今年の夏作品にした。

・白木槿父とわれとの界に咲きとほき 会話も仄白く光る

地上での生は短い。しかし、人間には「愛」がある。何とすばらしい事だろう。平和な未来を築くためにも。・「受くる」より「与ふる」愛へ、早春の噴水に静かなる胸

会員の語らい

ふるさと

坂本イツ子

(旧姓 穴見 昭・38年卒)

「ふるさと」…さまざまな心情に包み込んでしまうこの四つの文字。或る時は父、或る時は母、そして兄、姉、弟、何時如何なる時でも誰にも侵入されることなく想いを馳せ「生命の泉」となってきた「ふるさと」。時の流れは無情なほどに早いものです。今までの人生に於いて、これという収穫を得る事出来ずしてきてしまった事が悔やまれてなりません。



数年前、帰郷の際或る事がきっかけで老人ホームを慰問させて頂いたことがあります。その時、数曲唄わせて頂いたのですが、歌を通しておじいちゃん、おばあちゃんの出会いが出来ました。皆様の前に立った瞬間とても懐かしく胸が熱くなったのを覚えています。一人一人が、まるで何年もわが子の帰りを待ち続けやると会えた時のように

涙し、唄っている私に今迄のさまざまな出来事や想いを顔や体で訴えてくるのが分かりました。それを一つ一つ目や握手で確認し聞き乍ら「御苦労されたんですね。時々しか帰ってこれずごめんなさい」と故郷を守って下さっているその方々に詫言続けました。

その頃からでしょうか。一人一人の人生に關心を持つようになり、多くの方々とお話させて頂いたのですが、想像を絶する程に、恨みや憎しみの闘いがあり、涙みがありました。人生なんてこんなものとか、もう忘れたとか自分云い聞かせている方も沢山います。しかし、涙みを探し出してでも追放しない限り、人生が更に複雑になっていく現状が存在している事も事実です。最近、その涙み摘出法が少しずつ解明されてきつつあるのですが…

人前で唄わせていただく以上、人格を磨かなければと常々思っていました。さまざまなたとの出会いが、じゃが芋がぶつかり合い皮が剥かれ綺麗になってゆく、そんな世界を感じます。結婚して丸七年が経ちました。賢い妻は、立

派な旦那様を創ると言われます。心の様々な涙みが自己中心者を生み出し、口を開けば人の欠点を重箱の隅を、啄くが如く探し出し、いかにも正しいと言わんばかりに声を大にして叫んでいる姿をテレビを始め、あちこちに見、それを耳にして「そうだ！ そうだ！」と頷く事の恐ろしさを思う時、心は深刻

な五十年ぶりの再会、あるいは三十数年ぶりの再会。なつかしい顔「アレ！あの人、は誰だったかな？ あっ、そうだ、〇〇だ」東京駅で、新宿駅で、また箱根のホテルでの久しぶりの再会にお互い感動し、また懐かしむ会話がまたあちこちで交わされた。

クラス会の動き

竹高三十三会卒業三十五周年記念集会

8月22日 箱根開催

羽田野次彦(昭・33年卒)



は、恩師の後藤孝一・城下義郎両先生と全国各地から集った同級生五十二名で、皆んなは久しぶりの再会にそれぞれ数多い思い出をなつかしみ、お互いに喜び合った楽しい三十五周年集会であった。

この竹高三十三会は、五年前の昭和六十三年八月に卒業三十五周年記念式典を母校竹田高校体育館において開催したが、その際に次の三十五周年記念集会是、東京で開くとの申し合わせをした結果、今回の開催の運びとなった。

八月二十二日、東京は快晴。朝十一時に東京駅へ集合し、貸切バスにて都内

遊覧、NHK放送センター、都庁展望室、ホテルセンチュリーハイアットを見学し、新宿から小田急ロマンスカーにて箱根へ向かった。参加者全員が箱根湯本のホテルに集合したところで、大宴会場において記念パーティが始まった。

まず最初に記念撮影、幹事よりの挨拶、米賣の後藤、城下両先生よりのご挨拶をいただき、各地区別近況報告が各支部の代表からあった後、乾杯し、懇親会にはいった。懐かしい友、久しぶりの再会で宴が盛り上がり、時間を忘れてまた席が入りみだれての宴席が続いた。まだまだ話し足りない気持ちを持ちつつ、万歳三唱の中締め、校歌斉唱で三十五周年記念集会是終了した。

翌日は、一部ホテルで別れるものもいたが四十五名の者が、箱根観光遊覧バスで遊覧船で芦ノ湖を渡り、湖畔の「山のホテル」で昼食をとった。帰路、箱根関所跡を尋ねた後、小田原駅へ向かった。

いよいよ別れの時がきた。新幹線で大阪・名古屋へ帰る者、ロマンスカーで東京・羽田方面へ帰る者、またの再会を約し、それぞれ帰途についた。

我々三十三会は、五年後の卒業四十周年を、関西支部の幹事よりの提案で、大阪で開催することにした。還暦一歩手前を皆んな元気で大阪で再会しよう。

事務局だより

## 顧問会議開催

幹事長 佐藤映之

(昭・28年卒)

折にふれ母校に対するご提言や当会の運営に関し色々ご助言をいただいた大先輩、顧問の方々にお集まり願ひ会発展の為您のご意見、ご示唆を伺うべく顧問会議を開催した。冷夏長雨の異常気象の続く夏の終盤、八月二十一日(土)正午、神田学士会館にて行なわれた。冒頭、伊東会長より多忙の折のご出席並びに日頃の会運営に対するご協力に感謝、八月十七日、宮崎名誉会長のご逝去、会としての対応、当会議に本校並びに同窓会本部の出席を求めたが都合つかず欠席、本席はご忌憚のないご意見を願う旨の挨拶、司会進行役は高宮相談役。――本題に入る前に当会の発展に多大の貢献をいただいた宮崎氏のご冥福を祈って全員で黙禱――、当会は創設当時から見れば格段の進歩を遂げている、関係各位の努力に感謝と前置き、順次長老からの意見を巧妙に引き出す。要旨は次の通り、○同窓会の意義は同窓生の親睦と母校の発展を期すことにある。○会報「臥牛」は非常に良い継続せよ。○女性の参加向上を図れ。○新卒生の参加促進を考えよ。○本席に母校からの不参加を残念に思う。○情報を多く吸収した教育方針が執られているのだろうか。○体育会の寄附

印象づけた。執行部としては高説を今後の運営に大いに生かしたいと思う。尚、同席した各役員から現況報告や抱負等があり定刻二時に閉会した。

出席者 ― ( )内数字は卒業年―

顧問 矢嶋三義(4) 工藤幸男(6)

田部 健(11)

相談役 高宮 昇(8) 後藤鉄石(10)

会長 伊東七五三(20)

副会長 渡辺正治(10) 長吉 泉(26)

幹事長 佐藤映之(28)

副幹事長 羽田野次彦(33)

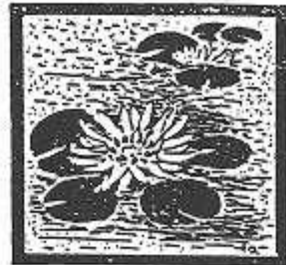
総務委員長 渡邊真一(23)

企画委員長 工藤敏暢(29)

組織委員長 粟生利信(23)

はもつと組織的に。○大野生れて僅か五年間の在竹であったが竹田には非常に親近感を覚える。○Uターンを誘導するような町づくりを期待する。○総会の折、母校からの出席者の発言時間が少ないとの意見もあるが逆の意見もある。○母校及び同窓会本部との交流の場を総会の前日にもつたら如何。○在校生の志気を鼓舞する為講演会等在京有識者(O・B)を向けたらどうか。○伝統のある文教の里としての威光を守って欲しい。○本校の同窓会に関東同窓会から参加し交流を図ったら如何。

活発な意見が続出し強烈な母校愛を



## 総務委員会について

総務委員長 渡邊真一 (昭・23年卒)

さきの総会において得丸前委員長の後を継いで選任されました渡邊でございます。何卒よろしくお願い申し上げます。さて、総務委員会の任務ですが、端的に申しますと会計担当ということであります。したがって第一義的には会員の皆様からお預りいたします

会費等の適正な管理ということにつきると思えます。しかし、組織の拡大とその活動の質的な面での充実の要請が徐々に高まっていることを考えると、単なる会計担当ではなく組織としてある程度広汎な活動に十分耐えられる財政の基盤を確

立していくという、前向きな姿勢が大切ではないかと考えております。ところで、現在の会の収入の状況ですが、総会の当日出席者からいただきますが、会費と維持会員による年間一口五千円の会費の二本建てとなっております。それを本年の総会でみますと、総収入のうち維持会費によるものが五十四パーセントとなっており、会の運営は文字どおり維持会費によって大きく支えられているということでありました。したがって、会の財政の確立とは維持会員の確保につきると言っても過言ではないと思っております。現在、会員の皆様のご理解と各役員の大変なご努力により相当数の維持会員を擁しており、お陰様で現状での会運営の収支では若干の余裕を計上できる状態になっております。しかし、先程申し述べました会の財政の確立という命題からはまだまだ時間を要する問題だと考えております。

さて、最後に場がいなお願いかとも思いますが、あえて申し述べご理解とご協力を賜わりたいと思えます。それは維持会費の完全な収入の確保の問題であります。九月一日現在で平成五年分の維持会費の収入は、その口数で八〇パーセントであり、二〇パーセントが未納という状態にあります。どうかご協力を賜われますようお願い申し上げます。

今回から大阪より転勤の菅豊広氏(昭和三八年卒、竹田市浦町出身)に広報委員を引き受けてもらって編集に加わっていただきました。今後の御活躍を期待します。

先号までご協力下さった田部洋子、榎本潮氏は都合で広報委員を辞められました。ご苦労さまでした。

今回から大阪より転勤の菅豊広氏(昭和三八年卒、竹田市浦町出身)に広報委員を引き受けてもらって編集に加わっていただきました。今後の御活躍を期待します。

あとがき

前号「豊後竹田の子守唄」で御紹介した橋本俊太郎氏が、先日亡くなられました。貴重なお話を有り難うございました。謹んで御冥福をお祈り致します。本会報は出来るだけ多くの会員に読んでいただき、また多くの会員の方にご参加いただきますよう皆様の楽しい原稿やアイデアをお待ちしております。現広報委員の豊かな(?)才能と人脈にもそろそろ陰りが見え始めました。そこで今号では、友達の友達のそのまた友達までも頼って原稿を依頼しました。ご協力いただきました方々に、この欄をお借りして感謝申し上げます。



(古庄)